

愛知県環境審議会総合政策部会 会議録

1 日時 平成25年3月21日（木）午後1時30分から午後3時20分まで

2 場所 愛知県自治センター3階 会議室B

3 議事

(1) 環境基本計画の改定について

(2) その他

4 出席者

委員11名、専門委員2名、説明のために出席した職員19名

5 傍聴人 1名

6 会議内容

議事録の署名について、青木部会長が小嶋委員と大東委員を指名した。

(1) 環境基本計画の改定について

- ・ 資料1から4について事務局から説明があった。

<主な質疑応答>

【井村委員】

「環境首都あいち」について、環境意識と環境技術が環境トップランナーとして「世界を牽引する」と格調高く、世界を意識して謳ってあるが、世界というとならず、パリ、ロンドンが思い浮かぶ訳で、東京、大阪と比べても名古屋がどういう街であるのかと説明できるだろうか。また、国際的に見てもこうだと言えるデータは、どのようなものがあるかなどと思われる。

次に、マトリックスで、「環境を常に意識する・・・が定着」といくつかの箇所で使われている。これはこれで良いが、本来は、いつも環境を意識するのではなく、考えなくても自然と環境が意識され、環境に配慮されていることが望ましいものであり、いつも環境を意識しているというこの表現はまだ途中段階ではないか。

【部会長】

世界の中の日本の位置づけがあって、その中に愛知があるというものか。

【小嶋委員】

我々の目指していく方向は、健康で長生きであることが基本的である。50年から60年ぐらい前までは日本の平均寿命は50歳と言われていたが、あっという間に今では80歳である。健康を目指す方向は、世界もおそらくこのようであり、それを支えていく愛知県が昨年、健康寿命日本一となったことは重要である。

そういう視点で見ると、資料3の2頁では、計画の目標に対するデータをもう少し充実していけないものか。愛知県には、健康と豊かな食べ物があって、都市の中でも水、緑が多い環境があるとか、こうした要素を今後織り込んでいけたらと思う。

【部会長】

資料3に示されている計画は、最近愛知県で策定された計画ということですが。

【事務局】

資料3では、最近に県庁の他部局や部内で策定された計画で、環境に関するものをピックアップしている。健康福祉の計画も人の健康の面などから環境に関わり深いということで、計画にも考慮していきたい。

【河野委員】

資料4のイメージ図で、船の絵が危険な感じにも見える。船は鉄製も木製もあるが、この絵は沈んでしまう感じもある。また、連携・協働の帆もESDの追い風がありますが、風には向かい風もあるので、もう少し工夫してはいかがか。

マトリックス中の低炭素社会中の記載で、愛知県は自動車の割合が多いのはデータの通りであるが、2-Bの②、③は自動車で、④は自転車であるが、公共交通機関の充実の視点も必要ではないか。

また、経済界からの意見としては、省エネが飛躍的拡大とあるが、これまでも産業界は相当に推進してきた経緯もあるので、2倍、3倍に拡大していくというのは現実的ではない。「さらに向上」という表現が適切ではないか。

【大東委員】

愛知県は、各データで見ていくと工業だけでなく、農業もかなり上位にあり、第1次産業、第2次産業がそれぞれ整った、ある意味珍しい県であり、そういう特徴を活かせるように前面に出していくのが良いのではないか。東京、大阪などと比較しても

一つ一つはトップでなくても、両方を兼ね備えた県としてトップランナーと見ることも出来るのではないか。

また、愛知県は多様性をもっている県であるが故の地域性も持っていると考え。名古屋のように都市化した地域もあれば周辺の自然豊かな地域があり、それらを無理の一つにまとめるのではなく、分けることも方向性として検討すべきではないか。

文章だけでは分かりづらいので、資料3の最終頁のようなイラストなども多用すると、イメージが掴みやすいのではないか。

【森田委員】

資料4の1頁で、「全ての県民が日常生活の中で豊かな自然を享受できる地域」という表現は、なかなか私たちの生活の中で実感できていないのではないか。これは非常に都市化された地域と取り残された緑と過疎の地域との両方の地域がある中で、上手に自然を楽しみながら感じているというイメージと思われる。そう考えると、例えば里山を増やすとか、都市化された地域の中に少しでも緑を残すということであるが、実際は残された緑の中に駐車場ができるなどといった状態である。資料4の囲みの中の表現が現実には比べ少し浮いているのではないか。もうちょっとピンとくる表現にするべきと思われる。

環境に配慮した経済活動は現実には既になされていることが多くあり、県民の環境意識や環境技術がトップランナーなどの項目は具体的な目標で分かりやすい。

「環境首都あいち」が分かるような、分からないようなもので、具体的なイメージが掴みにくい。首都というのは日本の首都であるが、世界を目指すというと、例えばCO₂の排出目標はどうであるかなど、現実を突きつけられると厳しいものではないか。

今回は、参加・協働を参画としてはいかがかと発言したが、連携という表現は、個々が主体性を持って参画していると感じられて、良いと思われる。

資料4の第3次計画では、施策の展開に具体性がある方向が分かりやすいものであったが、今回は細かいところはまだないということで、これからの検討かと思っている。また、資料3での、2つの未来を想像した選択のイラストは興味深い資料である。

【事務局】

「環境首都あいち」のイメージを現時点で説明するのが難しく、また、具体的な数値を掲げることも難しい中、出来るだけ分かりやすい、端的な表現を目指した。

第3次計画にある施策の展開については、今後第4次計画でもこれから施策の柱立てを検討し、そこからブレイクダウンしていく予定としており、次回以降お示ししていきたい。

【浜口委員】

資料4、マトリックス中で「ライフスタイルが定着」というのは抽象的で分かりにくいと感じる。これまでの経済状況の変化や家庭でのCO₂排出量が上がっている事実などがある中で、個人個人が環境を意識しなくてはいけないと頭で分かっているけれども行動ができないというところがあり、ライフスタイルを定着するためには、まず価値観を変えていくことが必要。もう少し、ここの表現にも工夫が必要と思う。

連携・協働の中で、全ての県民が活動に参加することが一つのステイタスになるとか、生きていく中での価値観になるなど、例えばそういうことをベースにしながらライフスタイルが変わっていくきっかけになるといったストーリーがあると、ライフスタイルとして定着していくのではないか。

【吉久委員】

騒音問題の専門家としては、資料2で愛知県の実況に騒音問題の記載がないのは淋しい。前回には教育が大事であるという話があったが、騒音の問題を扱っていると、非常に大きな音をたてないとか、周りの状況を考える、あるいはごみを出さない、無駄にしない、エネルギーでは電気を付けっぱなしにしない、など、まずは連携の前に個人個人が環境を大切にすると認識していくことが必要と感じている。

資料4の「快適な環境を享受する」とか、マトリックスの中の「県民一人ひとりが自然を大切に作る心」もそうだが、まずは教育、個人が環境を意識していくというような体系づくりが必要であると思う。

【事務局】

マトリックスについては、2030年には本県がこういう姿、あるべき姿、こうなっていると良いのでは、という観点でもご意見いただきたい。

【部会長】

環境を常に意識するとするのは、上からの押しつけ感もある。

何か、もう少し各委員から、2030年を見据えてどうか、あるいは、こうするとどうかなどの具体的なご提案などのご意見はどうか。

「環境首都あいち」について、ご意見もいくつか出ているが、ここを議論の対象としていくことはいかがか。

【事務局】

「環境首都あいち」という言葉を県としては使っている。事務局としては、「環境首都あいち」のフレーズは残したいと思っている。ただ、行政として使っているものの

「環境首都あいち」が良く分からない、非常にあやふやな感じも確かである。ただ、「環境首都あいち」をこの基本計画の中ではっきりさせたい、各委員が考える「環境首都あいち」を統合して創っていただければいいと思っている。

【稲垣委員】

資料4について、東日本大震災を契機に再認識された「安全・安心」の確保は基盤となるものであり、基盤となる「安全・安心」の確保を大前提にして、などと囲みの下は非常に良いことが書いてあり、3頁ではこれを船で表現してある。しかし、ここで書いてあることはすばらしいが、その下の枠や2頁の表を見ると、安全・安心社会、低炭素社会、資源循環社会、自然共生社会の4つが並列になってしまっている。従前は確かに、第3次基本計画の視点「安全・安心」は狭い範囲、昔から言う公害というものを対象としていたが、東日本大震災を契機に安心・安全の概念はもっと幅広いものとなっている。例えば、エネルギー対策にしても分散型の地域エネルギーを推進していくことが重要で、安全、安心には防災の観点も必要となっている。地域エネルギーも必要であるし、生物多様性の観点では、例えば間伐をやる時には、皆伐でなく、除伐にすれば土砂が流れなくなる。そのような面にも配慮した対策、まちづくりそのものを変えていかないといけない。しかし、1頁、2頁の内容は、環境部が作成するようになってしまう面もあるかと思うが、愛知県の環境基本計画だからそのようなことも含めた書き振りが必要である。言っていることと中身が少しかけ離れている感じがある。また、社会は東日本大震災を契機にそういう視点が相当に加わってきている。

さらに、「温暖化問題」、「廃棄物問題」、「生態系保全」は、独立した問題であるということではなく、相互に関連しているものであるから、独立していると敢えて言う必要はない。そのあたりの整理も必要である。

【松本委員】

教育的な観点をもっといれるべきではないか。このような社会を実現していくためには、価値観の育成が必要と思われる。

船の絵は少し気になるところがあり、また、安全・安心の基盤の上に他の社会があるのでは逆ではないか。低炭素社会、自然共生社会、資源循環社会が実現できてこそ安全・安心が守られていくという考えもあるのではないか。

また、高齢化や単身世帯が増加する状況での対策の視点、取組も必要と思われる。

【事務局】

資料中の「連携・協働」の欄に記載してあるとおり、環境面で地域を支える人づくりは非常に重要と認識しており、次期の環境基本計画の中にも盛り込んでいきたい。

また、船のイメージ図については、さまざまなご意見をいただいているので、再検討していきたい。

【部会長】

船については、いろいろご意見あるが、情報共有するには、船のイメージがあったのは良かったと思われる。

【田中委員】

前日も発言したが、環境教育は、読み、書き、そろばんと同じで、子どもの頃から身につける、言わなくても自然と身につくことが理想である。

「世界を牽引する環境首都」については、世界を牽引する地域では、井村委員の発言のとおりロンドンやパリとかが頭に思い浮かび、果たしてどうだろうかと引っかかるところがある。多分、「アジアを牽引する地域」となれば、北京、マニラ、バンコクが思い浮かぶこととなり、低炭素社会、資源循環社会、自然共生社会のリーダーとして引っ張っていけるといったイメージが湧き上がるのではないだろうか。

経済的なことも考え、地域のこと、交通なども無理なくイメージできるのではないだろうか。世界をアジアに言い換えるというものではないが、イメージとしてはどうだろうか。

また、この計画の推進、あるいは連携・協働にあっては、愛知県としての連携、例えば三重県との連携、あるいは長野県との話し合いの場を設けるといったことも検討すると、予算の確保や計画の推進にうまく反映できることがあるのではないだろうか。

【事務局】

広域連携については、第3次計画の中でも東海3県などの連携を行っていくことを掲げている。第4次計画でもこうした広域連携は盛り込んでいきたい。

【部会長】

資料4の「県民の意識と環境技術が世界を牽引する」、の箇所について、後半は愛知県では世界一の自動車メーカーがあり、製造技術もナンバーワンということで、環境技術で牽引していくというのは良いが、前半部分の県民意識の方はいかがか。

【稲垣委員】

事務局に変わって少しフォローすると、愛知は、まさにご発言のとおりトヨタ自動車を始め低公害車が多く、先日も外国からの客人から、愛知県はハイブリッド車が多いことを非常に感じるなどの発言があった。その他にもCOP10では、「愛知ターゲッ

ト」といった愛知を冠にいただいた目標ができ、生物多様性では生態系ネットワークなど愛知ターゲットを実現する取組を世界に発信したいとして種々の取組を実施していることと思う。そういう意気込み、取組を基本計画の中にきちんと書いていくことで県民の意識も変わってくるであろうし、また、先生方のご理解もいただけるのではないか。ぜひそういうこともどんどん盛り込んでいただきたい。

【織田委員】

愛知県では、三河山間部では過疎地が非常に多い地域があつて、実際に愛知県の半分の地域が今後どうなるのかという懸念がある。

稲垣委員からも発言あつたように、エネルギーの地域政策の観点も必要である。そういった環境に関わる全体の繋がりが見えてこない。

鳥獣害対策の問題では、駆除を促す会議はあるが、殺処分の数も増えてきている。外来種とか希少種の問題でなくても、一般種の問題も含めて、さらに過疎化と同時に山間部の環境の問題として捉えていく必要があるのではないか。

【森田委員】

最初に「全ての県民が・・・」のフレーズについても、今発言のあつた生物多様性の問題等がもう少しきちんと反映されると良いと思われる。

それと、やはり「環境首都あいち」がよく見えてこない。「環境首都」という言葉がキャッチフレーズとして使える、ポスターで使えるような言葉であると良いと思う。プランというものは見る人が限られているため、ポスターなどで使える言葉であると良いと思われる。この言葉でも素敵なサブタイトルなどがあると、皆の気持ちの中に納得して入っていくのではないか。

連携・協働という言葉ですが、先ほど県同士の連携もあるとの話もあつたが、第3次の施策展開の中にも記載されているゼロエミッションの構想における小さいコミュニティの形成とか、水の循環に沿って活動している団体とか、もう少し小さなネットワークを下から創るようなことがプランを進めていく上で必要ではないかと思われる。

【河野委員】

地域連携ということで、資源循環社会に関して、一般家庭から出す廃棄物も企業からも出す廃棄物も循環させるためにはリサイクル産業の存在がある。そういったところに入って来る資源が少なくなると循環が進まなくなるわけで、愛知県単独で、各県毎にリサイクル産業を持つのではなく、ある県ではプラスチック再生を行い、ある県では自動車のリサイクルを行うなど、広域した連携を考えていかないと循環としてなり得ないのではないか。資源循環にかかわらず、低炭素、自然共生においても愛知県

を超えた広がった形での連携が必要ではないか。

森田委員の発言にもあったが、「環境首都」という言葉について、一旦打ち出したから取り下げられないというのはいかがか。どちらかというとなら愛知県は産業が盛んな県であり、かつ、環境にも配慮しているということだと思いが、だからといってそれが「首都」であるかというのはいかがか。見直すということもあっても良いのではないか。

データが数量とか年次推移などとなっているが、経済状況が低かったリーマンショックのあとCO₂の排出量が下がったのは当たり前で、生産出荷額など経済活動指標と併せて、原単位のように見ていくと、より指標としてふさわしいのではないか。

【大東委員】

環境首都という言葉は、名古屋市が松原市長さんの頃から使っている。自治体が環境に配慮しているとアピールするには非常に使いやすい言葉ということで、愛知県も使おうとしていることと思うが、実態が伴わないと宣言してどうなのかと言われてしまう。名古屋市も同じことがあったかと思うが、藤前干潟をごみ処分場から救ってラムサール条約に登録したといった目に見える取組があった。では、愛知県はどうしていくのか。ここが今問われているところだと思う。

【事務局】

「環境首都」については、知事、名古屋市長のマニフェストでも使っているもので、環境部としてはせつかくの機会でもあり、「環境首都」ということを目標にして、これから先の環境政策を進めたいと思っている。そのためには、まず2030年の環境首都のイメージを描かないと進められないのではないかと考え、前向きに「環境首都」をイメージして進めようという気持ちで示したものである。実態が伴わないかとか、他の県と比べて抜き出ているところもあるが必ずしもそうでないところもある。この計画では、2030年の理想的なイメージを描いて施策を展開していく、そういう意気込み的なものも示したいと思っている。

先ほどの稲垣委員からのご意見のとおり、安全・安心が社会の概念も変わり、震災以降強調されるべきではないかということもそのとおりであると思う。施策もそういう方向にシフトせざるを得ないとも思っている。そういう意味ではここは重要ではないかと思っている。下の方の低炭素社会、資源循環社会、自然共生社会でもここは施策、課題的なものを示したいと思っている。上の囲みは県民の方々がどういう理想的な「環境首都」をイメージできるかということを表現したい。

全国の首都として考えたときに、どこまで頑張れるかというイメージを出していきたいと思っているのでご理解いただきたい。

【大東委員】

今回、愛知県が2030年の姿を出すのは画期的だと思っている。名古屋市でも水循環のプランでは2050年を描いた姿をターゲットにして見ている。名古屋市がプランをつくった時に各部局が同じテーブルで議論してきた経緯がある。県としても環境が主体的に動くのは当然だが、他部局を巻き込んで1つの組織をつくり、2030年の姿を議論していくと良いのではないか。

【事務局】

庁内の連絡会議は既につくってあり、ここでの議論も踏まえ、庁内の代弁者として、ここに環境部が出てきているというものである。

【三島委員】

2030年の姿をイメージする前に、今置かれた環境にどう向き合うのかという視点が抜けている。少子高齢化社会、グローバル化社会、IT社会を見据えたパブリックサーバーという視点、あわせてライフの視点はああるが、働くというワークの視点がない。2030年の社会を見据えた時に、他人を認め合う人権のような視点も暮らしや安心・安全の視点の中に加えて考えていくべきではないか。

【森田委員】

「環境首都あいち」という言葉に何を込めるかということだが、日本には良い言葉があり、白砂青松、山紫水明、緑したたる中で遊び働く老若男女、イメージするものはこういうことではないか。私たちは白砂青松、山紫水明などからイメージできるものを失ったのではないか、生き生きと働いて、安全・安心な暮らしがある、イメージするのは、こういうことではないか。

「環境首都あいち」とは何、と言われた時に、そういうものを取り戻すという宣言をしていくことというようなことを表現できると良いのではないか。

【部会長】

「環境首都あいち」に何を込めるかということであるが、様々なご指摘もあったかと思うので、事務局の方でもう少し詰めて検討していく必要があるのではないか。

三つ目の「環境技術が世界を牽引」は具体性があるのだが、その前のフレーズの具体的なイメージがなかなか掴めないようである。

【松本委員】

「環境首都あいち」のところでは、大体のフレーズが「全ての県民が」で始まるのだが、これを読んだ県民が自分のこととして捉えにくいのではないか。自分のこととして思えるような表現にしていくのが良いのではないか。

【事務局】

本日のご意見なども踏まえ、さらに検討していきたい。

(2) その他

特になし

以 上